



ななてい

行 務
第7偵察隊
誌

厳しい冬も終わり 第七偵察隊の新年度始まる



北海道の厳しい冬がようやく終わり、春の訪れとともに第七偵察隊の新年度が始まった。
新年度開始とともに偵察隊は今年度最大の目標である隊訓練検閲受閲に向けて、ATCE訓練を皮切りに、各級指揮官の指揮能力の向上を図るとともに、乗員間の連携等を演練した。また、対戦車火器射撃集合訓練及び八七式偵察警戒車による

師団対戦車火器射撃集合訓練



小型トラックから射撃



73APCから射撃

師団徹甲弾射撃集合訓練を偵察隊が担任して、充実した令和八年度の開始となった。
その後、偵察隊は隊訓練における「任務完遂」のため、偵察隊長加賀谷二佐を核心とし、偵察隊としての更なる部隊行動能力及び各級指揮官の指揮能力を向上させ、精強第七偵察隊を目指す。

トピックス

- 1 七偵察の新年度始まる
- 2 創隊70周年記念行事
- 3 機甲職種・全道銃剣道大会
- 4 小隊検閲・練成訓練
- 5 冬季戦技競技会
- 6 新渡道スキー訓練・積雪地訓練
- 7 物官・補整検査及び部隊格闘指導官認定
- 8 部隊スキー指導官養成訓練・冬季遊撃・戦車夜間射撃
- 9 小銃分隊市街地戦闘・小銃分隊戦闘射撃・対空実射
- 10 機能別射撃訓練
- 11 後定期異動(転出入)任期満了に伴う除隊
- 12 受賞者及び定年退官者紹介・募集・HP・編集後記

師団徹甲弾射撃集合訓練



車長 宮戸3曹

砲手 佐藤3曹



徹甲弾ドームへの射撃



安全教育

「第一次隊集中訓練」
各小隊毎、訓練を通じて認識を合わせる



地図判読



偵察のための前進



集結地侵入要領を演練



浸透してくる敵を射撃



偵察のための前進



指揮所まで有線設置



敵を待ち伏せる隊員



第一線救護(搬送要領)



大型トラックから搬送



装甲車からの負傷者搬送



PC機材教育

第7偵察隊創隊70周年記念行事 70周年を祝う

令和八年二月七日、連日の厳しい寒さが続く厳冬のなか、第七偵察隊は創隊七〇周年記念行事を実施した。第七偵察隊の歴史は、昭和三十一年一月、第七偵察中隊が名寄で編成され、移駐改編を経て昭和三十六年二月第七偵察隊に改編となり、翌年東千歳駐屯地に移駐し現在に至る。式典については二部構成で実施し、記念式典においては、退官及び現役OBの多数のご臨席をいただき、第七師団長武田陸将及び、第七偵察隊OB会会長清水様からご祝辞を賜った。

祝賀会食では第十三代偵察隊長山形様、賛助会員である千歳市議会議員山崎様よりご祝辞をいただき、第十六代偵察隊長野口様の祝杯のご発声により華々しく開宴した。

この日、久方の再会と懐かしい日々を思いを馳せて創隊七〇周年をお祝いし、創隊以来諸先輩方が築き上げてきた良き伝統を継承して、いかなる任務においても任務完遂できる強い第七偵察隊を築いていくことを誓い、記念式典は盛況のうちに幕を閉じた。

記念式典

前段記念式典においては第七偵察隊長加賀谷二佐以下全隊員をはじめ、退官・現役OB、賛助会の多数のご臨席の中、肅々と式典は行われた。



巡閲を受ける偵察隊長加賀谷2佐



第7師団長武田陸将よりご祝辞をいただきました

祝賀会食

第七偵察隊OBでもある第七師団長武田陸将及びOB会長清水様からご祝辞を賜り、また多数の方々からの祝電をいただきなど隊員一同、身の引き締まる思いであり、今後の任務遂行への大きな励みとなった。(後段祝賀会食へ続く)



所掌ごとに点検する隊員



慧敏赴難



ご来賓の7偵OBの皆様



第7偵察隊OB会長 清水様



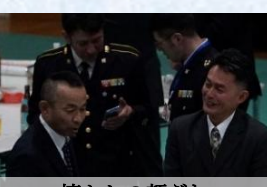
祝宴は終始大盛り上がり



全席を回った師団長



第十三代隊長 山形様からご祝辞を賜った



懐かしの顔ぶれ



共に切磋琢磨したお二方



第十六代隊長 野口様のご発声で祝宴開始

後段祝賀会食では当初第十三代隊長山形様、OB会賛助会員の山崎様よりご祝辞を賜り、第十六代隊長野口様より当時の思い出話を添えて祝杯のご発声をいただき祝宴は華やかに開宴した。

開宴とともに場内は一気に盛り上がりを見せ、懐かしの顔ぶれに当時の思い出話に華を咲かせていた。

最後に一同で隊歌斉唱を行い、先任上級曹長木村准尉による三本締めにより、創隊七〇周年記念式典は盛大に幕を閉じた。

『令和七年度機甲職種銃剣道大会』 中明士長大健闘！個人戦陸士の部「優勝」 団体戦でも陸士の部「準優勝」の功績

令和八年三月九日から十三日の間、相馬原駐屯地において実施された令和七年度機甲職種銃剣道大会に小鹿一曹以下九名の隊員が参加した。

当初、団体戦陸士の部において第一ブロック上位二位に食い込み、決勝トーナメントに駒を進めた。

決勝トーナメントでは初

戦、第九偵察戦闘大隊と対戦し、二一で九偵戦を破り準決勝へ進出した。準決勝では第一偵察戦闘大隊と対戦。三〇のストレート勝ちを決めて見事決勝戦へと進出した。

決勝戦では第十三偵察戦闘大隊との対戦となった。先鋒を務

めた片桐士長が一本先取するも、続く中堅中明士長、大将遠藤士長が敗れ、一―二で十三偵戦に負けを期し、準優勝の結果となった。

また、個人戦陸士の部において中明士長が決勝戦まで勝ち進み、相手は又も十三偵戦の選手と対戦となった。双方互いに一本ずつ先取した延長の末、見事に優勝を勝ち取った。

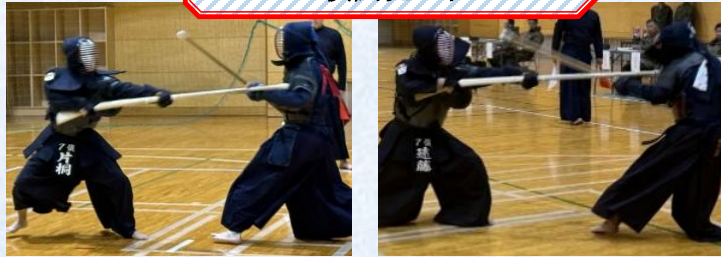
陸曹以上の部においては今大会惜しくも振るわなかったものの、じ後に繋がる試合内容であった。

今後益々の「七偵銃剣道」が強くなることを期待する。

陸曹以上の部においても入賞以上の頑張りを見せ、次へ繋がる試合を行っていた。



七偵闘魂三銃士



トロフィーを受け取る中明士長



陸曹以上の部	
監督	小鹿 一曹
先鋒	渡部 二曹
次鋒	宮戸 三曹
中堅	福島 三曹
副将	海老名 三曹
大将	楠 三曹

陸士の部	
監督	渡部 二曹
先鋒	片桐 士長
中堅	中明 士長
大将	遠藤 士長

成年の部	
監督	渡部 二曹
先鋒	宮戸 三曹
次鋒	喜田 三曹
中堅	石井 三曹
副将	福島 三曹
大将	楠 三曹

団体戦
女子の部
北海道B
第三位
高橋 士長



隊は令和八年三月二十八日から二十九日の間、札幌市北ガスアリーナで実施された北海道銃剣道選手権大会に参加した。

本大会では成年の部団体トーナメント戦に参加をした。監督渡部二曹率いる第七偵察隊は初戦、当別混成チームと対戦し五―〇で全勝し、次は第二特科連隊第二大隊と対戦。これも全勝で勝ち進めた。そして続く三回戦、第七施設大隊と対戦。激戦を繰り広げるも一―四で惜しくも敗れた。また、唯一女性隊員も参加した高橋士長は混成チーム北海道Bで出場し第三位の成績を残した。

本大会における結果は第三位の成績であったが、七偵銃剣道訓練隊は引き続き最高の一本剣を磨き、更なる練度向上を図る。

『北海道銃剣道選手権大会』 勝ちにこだわり上位入賞を掴む

『第一戦闘偵察小隊訓練検閲』 厳寒の季節でも一致団結して 任務遂行した一小隊

隊は令和八年二月十八日から二十日の間、北大演恵庭・千歳地区において第一戦闘偵察小隊訓練検閲を実施した。
検閲課題目「冬季における偵察目標への前進」、主要検閲項目「小隊長及び分隊長の状況判断・指揮」、「行進・集結地の占領」及び「偵察のための前進」を実施した。



各分隊長にじ後の企図を示す松田曹長
(写真中央奥)

厳寒の季節での検閲において、一小隊は小隊長松田曹長を核心として、小隊の強固な団結力を発揮し、隊の作戦に寄与するよう積極的に行動した。
集結間、直接警戒の隊員が負傷した際、迅速に症状を把握し適切な救護処置を実施して、速やかに交代の警戒員を配置し継続的な警戒を実施する等、これまでの訓練の積み重ねを検閲の場において十分に発揮した。



第一線救護を速やかに実施する隊員



負傷者を後送する隊員達



上空や周囲の音にも警戒



厳しい寒さにも耐え静かに監視を継続



『電子偵察小隊訓練検閲』 あらゆる手段を尽くし 情報収集能力を発揮する

隊は令和八年二月十八日から二十日の間、北大演恵庭・千歳地区において、電子偵察小隊訓練検閲を実施した。
小隊長菊池二尉は、小隊の集結地進入後、円滑に集結地の行動及び所要の警戒処置を実施させるとともに、速やかなレーダ哨開設及びセンサ埋設を行い、監視体制を確立させた。また、レーダやセンサ器材の不具合にも即座に対応し、あらゆる手段を尽くして器材の復旧及び眼鏡での目視による監視の継続など、監視任務に全力を注ぎ、任務を遂行した。



レーダ哨開設完了



ドローンを発見し射撃を実施している様子



雪壁を作成し監視位置を設置



そりを使用してセンサを埋設

『隊本部・本部付隊訓練』 小隊訓練検閲の場に 合わせて練成訓練を実施

隊は令和八年二月十八日から二十日の間、隊本部及び本部付隊訓練を実施した。
隊本部については訓練検閲の統裁及び移動指揮所による指揮能力の向上を図った。
付隊訓練については隊の集結地域での兵站活動及び衛生班による救護所開設等を実施した。



指揮所内の様子



移動型指揮所において訓練統裁



野外炊事車で食事の準備



高利得アンテナ設置の通信班



救護所開設の様子

令和七年度競技開始!

『令和七年度隊冬季競技競技会』 持てる戦技技術を発揮して激走する

隊は令和八年一月三十日、令和七年度隊冬季競技競技会を実施した。大会当日は天候に恵まれ、絶好の競技会となった。

北方隊員として冬季戦技技術は必須であり、あらゆる気象・地形・雪質を克服して軌動する技術が必要である。各隊員は起伏のあるコース総距離約六キロを各人の持てる技術を発揮して激走した。中にはバランスを崩して転倒してしまい、全身雪化粧して滑走する隊員も見かけた。

本競技会においては、各人の修得すべき技術の更なる練度向上及び勝負事に必要な闘争心・精神力を養うことができた。



女性隊員二小隊 新渡道の部(二位のみ) 女性隊員二小隊 新渡道の部(二位のみ)	女性隊員の部(二位のみ) 二小隊 牧田 士長	二十代 三小隊 三十代 二小隊 四十代 一小隊 五十代 二小隊	二十代 流割 三十代 清野 四十代 太田 五十代 米陀 曹長	個人の部(一位のみ)	優 電子偵察小隊 準優勝 斥候小隊
--	------------------------------	--	--	------------	----------------------



『令和七年度新渡道スキー訓練』 冬季戦技能力の基礎を習得

隊は令和七年十二月八日から令和八年一月下旬にかけて、令和七年度新渡道スキー訓練を札幌国際スキー場及び萩野山スキー場で実施した。

新渡道スキー訓練は、積雪寒冷地部隊に所属する隊員が部隊配属後、初のスキー訓練であり、隊員はこの訓練でスキー技術の基礎のほか、冬季の特性や部隊行動に必要な知識・技能を学んだ。

教官・助教は、情熱をもって日々のスキー訓練の指導及び部隊の戦力化に尽力を尽くした。



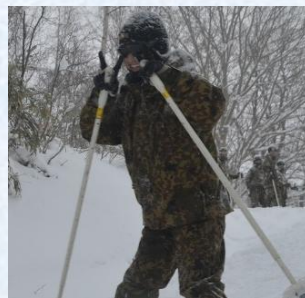
深雪に足をとられ転倒する隊員



必死にバランスをとる隊員



曲がりきれず教官に接触する隊員



特に本州からのスキー経験がない隊員は、冬山の厳しい寒さと慣れないスキー訓練で、積雪寒冷地の厳しい洗礼を受けることになる。また、スキー技術の難しさや冬山の知識の修得が課題になり、対応を誤ると凍傷や命に係わる重大事故に繋がるので、新渡道訓練の教育がかなり重要になる。
この約二カ月間の訓練で、新渡道訓練隊は一人も欠けることなく全員がスキー検定三級に合格した。

『積雪地訓練』 残雪残る演習場で機動訓練実施

隊は令和八年三月十一日、北大演東千歳地区において積雪地訓練を実施した。

積雪寒冷地に所属する自衛官はあらゆる雪質・地形を克服してスキー機動できなければ、部隊の任務遂行に重大な影響を及ぼすことになる。

本訓練は、各分隊長等の指揮能力の向上及び隊員個々のスキー技術の向上、ならびに隊員間の連携要領の修得を目的として実施した。

隊員達は、地形と積雪量に合わせてスキーとかんじきを換装しながら機動した。



前進経路を選定して前進



隊員が前進するのは不整地である



『令和七年度物品管理・補給整備検査』 二年連続整備検査「優」の評価を獲得

隊は令和八年二月二日から二月四日までの間、令和七年度物品管理・補給整備検査を受検した。
 冬季休暇明けから検査準備を万全にして、補給・車両・武器・通信等の現物・書類を繰り返し点検を行い、令和七年度物品管理補給整備検査「優」の評価を獲得した。
 令和六年度補給整備検査においても「優」の評価を獲得しており、後方幹部・管理班長を中心に明確な企図のもと計画的な整備・点検を実施した結果が、二年連続良好な成績を収める評価の獲得に繋がった結果であった。
 隊は、引き続き継続的な物品管理及び整備を実施して、良好な状態を維持して行く。



初見開陳の様子



検査後、各係へ労いの言葉をかける隊長



巡視の様子

『令和七年度師団部隊格闘指導官養成訓練』 格闘漬けの日々を乗り越え、念願の部隊指導官へ

令和七年十二月三日から令和八年三月十三日までの間、第十一普通科連隊が担任実施した令和七年度師団部隊格闘指導官養成訓練に第七偵察隊から二名の隊員が参加した。
 二名については本格的な準備訓練を夏から課外も利用して実施しており、一月の素養試験に合格した際は安堵の顔を見せていたのを覚えている。
 素養試験合格後、一息つく間もなく師団の養成訓練が始まり、格闘指導官に必要な知識・技能・応用力を徹底的に叩き込まれた。
 偵察隊の二名は、長く厳しい訓練を経て見事に認定試験に合格し、部隊格闘指導官の徽章をつかみ取った。



真剣な眼差しの二人



瀬戸3曹(最前列左から二人目)
佐々木3曹(最上段左から三人目)



訓練中の佐々木3曹



警棒携行時の瀬戸3曹



部隊格闘指導官養成訓練の様子

『令和七年度冬季遊撃』 遊撃レンジャー小林二曹帰還

令和七年度冬季遊撃に参加していた小林二曹は令和八年三月四日、全課程を修了し第七偵察隊に無事帰還をした。約二カ月間の教育において、教育前半はニセコトレーニングセンター周辺で、冬季山岳地帯で行動する上での基礎的知識及び技能を学び、教育後半では、北海道大演習場等において、各個戦闘、空路潜入、偵察監視、破壊、襲撃撃等、冬季遊撃隊の各種行動を修得した。今後は後輩に基礎的知識を普及し、部隊の精強化に尽力する事が託される。



レンジャー小林



無事に冬季遊撃課程を修了



偵察隊長に帰還報告する小林二曹



小林二曹の帰還を隊で出迎え



積雪が腰まである雪山を前進する小林二曹

『令和七年度師団部隊 スキー指導官養成訓練』 スキー指導官四名合格

令和八年二月二十日から同年三月四日までの間、第七偵察隊が担任実施した令和七年度師団部隊スキー指導官養成集合訓練に隊から四名の隊員が参加した。スキー指導官は、冬季において隊員が各個又は部隊行動する際に、あらゆる雪質・地形においても安全確実かつ迅速に行動できる事、及び部隊の技術練度を向上させるための指導にあたる。新たに認定され、晴れて部隊スキー指導官となった四名の今後の活躍が期待される。



雪崩遭難者救助を練成中



日高国際スキー場から



高田3曹 幌1曹
谷出2曹 青木3曹



機動検定の様子

『九〇式戦車夜間射撃』 夜間戦闘における 射撃練度を向上

隊は令和八年三月五日、北大演島松地区第一戦車射場において、九〇式戦車による夜間射撃を実施した。戦車装備部隊として、夜間戦闘時における射撃能力の向上を図り、昼夜問わず戦車火力を発揮できるよう演練し、じ後の夜間戦闘における射撃要領の資となった。

漆黒の暗夜、咆哮を轟かせる九〇式戦車



『小銃分隊市街地訓練』 昼夜間における行動を演練

隊は令和八年三月十六日及び十七日の二日間、東千歳市街地訓練場において昼夜間における小銃分隊市街地訓練を実施した。

各戦闘偵察小隊の小銃分隊は、組又は分隊単位で市街地及び屋内における基礎的行動、隊員相互の連携、検索・掃討要領を演練した。

特に夜間での屋内行動は暗視装置を使用して行動するが、隊員相互の連携が難しく、高い能力が必要となる。

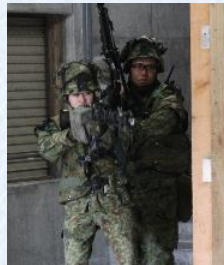
隊は引き続き練成訓練により練度向上を図る。



緊張の突入直前



突入する隊員



不安全を排除して進む分隊

『小銃分隊戦闘射撃』 夜間射撃における射撃・連携要領を演練

隊は令和八年三月二十四日、北大演東千歳射場において昼夜間における小銃分隊戦闘射撃を実施した。

特に夜間射撃においては周囲の状況確認が難しくなるため、昼間において隊員相互の認識統一及び射撃要領について練成し、安全確実な夜間射撃ができるよう演練した。

夜間射撃時、隊員は暗視装置を使用するとともに、タッチコマンドにより意思疎通を図り実施していた。



2個組並列で射撃



組による射撃(夜間)



夜間射撃要領を昼間で実施



バディの援護下で横移動射撃を実施する隊員

『令和七年度対空実射撃訓練』 高速で飛行する目標へ射撃

令和八年三月二十六日、第七高射特科連隊が担任実施する令和七年度師団対空実射撃訓練に隊から四名の隊員が参加した。

射撃訓練では、射撃組としての基礎的事項の修得のほか、組長の射撃指揮及び射手の目標追従射撃を演練した。また、対空目標に小型の模型飛行機を使用して射撃するが、高速で飛行する目標への射撃要領について、参加隊員は実感することができた。



山岸士長

米本土士長

原3曹

片石3曹



対空銃架からの射撃

『機能別射撃訓練』 新年度開始に向けての基盤作り

『九〇式戦車射撃』 初級機甲特技検定射撃

隊は令和八年三月二十七日、北大演東千歳射場において九〇式戦車射撃を実施した。本射撃訓練は、令和七度配置された戦車乗員二名に対し初級機甲の特技を付与するため、特技検定課目として実施した。専修員二名の特技修得に対する向上心と教官助教の熱心な指導・教育により、各習会及び課題は合格基準を満たし、良好な結果を修めた。



射撃に臨む和賀1士
(写真中央)



教育を全力サポートする戦車分隊



射撃前教育中



迅速正確な砲操作での的を狙う



『偵察警戒車射撃』 縮射撃を実施して各車ごと 認識を合わせ次年度に繋ぐ

隊は令和八年三月二十七日、北大演東千歳射場において偵察警戒車射撃を実施した。斥候小隊長高橋三尉は、新年度開始前から、RCV各車長の射撃指揮要領及び砲手の迅速正確な照準と砲操作要領を演練して、令和八年度の偵察警戒車射撃競技会「四連覇達成」に向けた訓練を開始した。



横行目標への射撃



観測・記録を実施中の隊員

『八十一ミリ迫撃砲縮射撃』 新たな職務で射撃に 臨む迫撃砲分隊

隊は令和八年三月二十六日、東千歳射場において八十一ミリ迫撃砲縮射撃を実施した。本射撃訓練は分隊の役職変更後最初の射撃訓練であり、分隊の連携及び機能の発揮、特に分隊・観測・射撃指揮班の三者連携機能を重点に演練した。迫撃砲射撃はいかなる任務でも迅速・確実な射撃を実施することが重要である。各戦闘偵察小隊の迫撃砲分隊は、部隊の前進而掩護する第七偵察隊の重要な火力である。



射撃準備



命令を受ける笹原3曹



観測：田中2曹
流割3曹



全般指揮をとる田郷1曹

『令和七年度後期定期異動』 惜しまれつつ 八名の偵友がご栄転

隊は令和八年三月十三日、令和七年度後期定期異動に伴う転出行事を実施した。
幹部の転出は、西田一尉、五十嵐一尉、梅津一尉、高橋一尉の四名、陸曹は、福岡一曹、吉田一曹、江澤二曹、高橋三曹の四名がそれぞれの新天地に転出することとなった。
この度の転出者の新天地での、ご活躍を祈念します。第七偵察隊での勤務大変お疲れ様でした。



第7偵察隊での勤務 大変お疲れ様でした



行事に参加できなかった梅津一尉を紹介する高橋一尉



梅津 1尉 高橋 1尉 五十嵐 1尉 西田 1尉

高橋 3曹 江澤 2曹 吉田 1曹 福岡 1曹

『令和七年度後期定期異動』 七員の新たな戦力。 四名の偵友を歓迎

隊は令和八年三月十六日、令和七年度第七偵察後期定期異動に伴う転入行事を実施した。
幹部は中川二尉、岩田准尉の二名。陸曹は渡邊一曹、石川一曹の計四名が第七偵察隊の新戦力として転入した。
じ後は、それぞれの新たな職務において存分にその手腕を発揮され、各所掌において活躍されることを祈念する。



第十一偵察隊から
中川二尉



ようこそ 第七偵察隊へ！



富士学校から
石川一曹



第七師団司令部から
渡邊一曹



静内駐屯地業務隊から
岩田准尉

『任期満了に伴う除隊』 四名の隊員。決意新たに新しい道へ

隊は令和八年三月三十一日、任期満了に伴う除隊式を実施した。
安居院士長、田所士長、山下士長、坂口士長の隊員は、約二年間の自衛隊生活を終了し、それぞれの新たな道へ進むことを決意して、この度の任期満了退職となった。
偵察隊は、それぞれ新たな岐路に立った偵友の旅立ちを盛大に見送った。



隊歌斉唱



左から安居院士長、田所士長、山下士長、坂口士長



同期との記念撮影



自衛隊勤務お疲れ様でした

偵察隊集合写真



苦難をともにした同期との別れ

『受賞者紹介』

第三戦闘偵察小隊

陸士長 伏谷 愛斗

伏谷士長は、令和七年度特技「初級らっば」において、術科及び学科ともに優秀な成績を修め、第十一普通科連隊長より褒賞された。

第二戦闘偵察小隊

一等陸曹 松谷 義忠

松谷一曹は、第二三四期陸曹上級課程において、学術修得及び内務諸様に精励し優秀な成績を修めた。その功績を認められ北部方面混成団長より褒賞された。

機甲職種銃剣道大会

個人戦 陸士の部

『優勝』

第一戦闘偵察小隊

陸士長 中明 賢汰

団体戦 陸士の部

『準優勝』

先方 陸士長 片桐 優太

中堅 // // 中明 賢汰

大将 // // 遠藤 一義

第六回機甲職種銃剣道大会において、中明士長が善戦し、個人戦陸士の部『優勝』の成績を収めた。また、団体戦陸士の部においても、勢いに乗った第七偵察隊は決勝戦まで勝ち進み、『準優勝』の成績を収めた。



「定年退官者紹介」
長年の勤務大変お疲れさまでした

本部付隊
陸曹長 高部 祐介
(令和八年四月九日付)



本部付隊
陸曹長 岩浪 聡子
(令和八年四月二日付)

「隊員募集への協力について」

令和八年度、陸上自衛隊北部方面隊では、自衛官候補生及び曹候補生を始め、防大、生徒等の募集に日々努力をしておりますが、今般の募集状況は非常に厳しい状況にあります。将来にわたる平和を維持するため、第一線部隊や隊員も「自主募集」に強く取り組む必要性を痛感しております。ご家族、OBの皆様、隊員のご友人等で、「自衛官」という職業に興味がある方をご存じでいらつしやいましたら、ご連絡をお願い致します。

〇一二三一二三一二三一二三

(内線 二六九五)

岡崎准尉まで



ご友人やご親戚、ご近所の方へぜひ、「ななてい」SNSのご紹介をお願いします。
閲覧後は「フォロー又はいいね」をお願いします。

編集後記

新年度も始まり既に晩春となりましたが、皆様どのようなお過ごしでしょうか。今年度も第七偵察隊は、陸上自衛隊唯一の機甲偵察隊として任務を完遂し得る精強な部隊を目指し、訓練に励んでいきます。皆様におかれましては、季節の変わり目に十分気を付け、体調を崩さないようお過ごし下さい。今年度も第七偵察隊の活動の様子及び隊員達の活躍を発信していきますので、引き続きよろしくお願ひします。

第七偵察隊
広報陸曹 幌一曹

各種訓練等を、「ななてい」Twitter「X」及び「ななてい」Instagramにてアップしておりますので、閲覧・登録をよろしくお願ひします。今後とも変わらぬご支援・ご協力をお願いいたします。

北海道千歳市祝梅一〇一六
陸上自衛隊東千歳駐屯地
第七偵察隊

〇一二三一二三一二三一二三
(内線 二六八二)



ななてい「X」



ななていinstagram

